

# 未来につながる 仮設的な広場

私たちは名古屋駅西側エリアに、非常に大きな広場空間を確保し、開放的で大きな吹き抜けをもつ屋外駅前空間を提案します。仮設資材によって広場を立体的に囲うことで生まれる「四角い雲」のような建築は、アイコン的な景観によって暫定的でありながらも、**リニア中央新幹線の玄関口として新しい顔となるターミナルスクエア**を生み出します。リニア開業時までの西側エリアの広場は、様々なイベントのシーンやリニアの工事状況、まちへの動線・滞留空間や施設の再配置などの多様な変更に応じて柔軟に対応できます。このような暫定的で、可変性に富んだ建築のあり方がこの場所に最もふさわしいと考えました。リニア開業以降の新たな広場空間再整備のため、本建築が段階的に再利用され、次の時代に向けて空間が更新されることを想定しています。



## □名古屋・西側エリアの特性を ふまえたデザイン

リニアが開業すると東京・名古屋・大阪の三大都市圏が約1時間で結ばれ、巨大な交流圏が生まれます。その中心に名古屋が位置しており、玄関口である名古屋駅周辺地区は、巨大な都市圏の交通拠点として、交通ネットワークを最大限活かすことが求められています。現在交通の動線交錯について課題がある西側エリア内に、「四角い雲」のようなアイコン的なターミナルスクエアを設けることで、広場での魅力的なアクティビティを中心とする新たな動線・滞留空間が生まれるきっかけとなります。

**4位：あかるい建築計画提案書【抜粋】**  
※本提案書はプロポーザルを実施にあたり提出されたものであり、本市の計画案として決定したものではありません。計画案は関係者との会議等をふまえ、決定する予定です。

## □暫定的な計画を見据え環境に配慮

近年建築工事において、施工期や解体期において発生する膨大な産業廃棄物の処理問題の解決が喫緊の課題です。本計画では、施工において最低限の仮設資材によって施工が可能です。また将来敷地内再整備において建材・資材をリユースができるなど多くのメリットがあります。

## □広場空間の確保

開放的な広場空間を確保します。広場を立体的に囲うことで生まれる場は、様々なイベントやアクティビティの創出を促します。



## □様々なシーンで憩い・にぎわいのある仮設的なデザイン

西側エリアはいつでもまちのアイデンティティが感じられ、新しい体験や出会いなど人々の様々な活動が繰り広げられる空間となることで、まちの新しい顔となります。リニアフロンティアの広場として様々なシーンを受け入れることが可能な空間とするために、仮設的なデザインでありながらも様々な文化の発信拠点として、機能が多様に変化します。

